

2010年9月9日
株式会社パスコ

(報道資料)

緊急撮影における撮影箇所自動特定システムを開発 (特許取得済) 撮影による自然災害、事件・事故の状況確認を大幅に短縮

株式会社パスコ (本社:東京都目黒区、代表取締役社長:杉本陽一、資本金:87 億円、セコムグループ、東証1部、以下パスコ)は、航空機や人工衛星を用いて収集した空間情報を処理・加工し、お客さまの課題解決に必要な空間情報サービスを提供しています。

このたび、パスコは、航空機による緊急撮影時に、撮影箇所の位置を自動で特定するシステムを開発しました。

■開発の背景

パスコは、これまで災害発生時にその被害状況を把握し、人命救助や二次災害の防止などに資することを目的に緊急撮影を実施し、関連機関や災害対策本部など、多方面に提供してきました。被災状況の的確な把握は1分1秒を争い、いかに正確な情報を迅速に提供できるかが大きな課題です。

緊急撮影で使用する機材も、アナログからデジタルに変わり、1回のフライトで1,000枚以上の被災地域の撮影をおこなっています。そして、撮影された写真は、膨大な時間をかけて、撮影者・熟練の技術者・土地勘のある技術者などが手分けをして撮影箇所の特定を1枚づつ行っています。特に目印となるものがない山間部などでは、特定作業は困難なものとなります。

このような背景の元、撮影箇所の特定作業の時間短縮と精度向上を図り、いち早く情報提供するため、撮影箇所の位置を自動で特定するシステムを開発しました。

■本システムの概要

今回開発したシステムは、撮影用カメラ(またはビデオカメラ)と撮影位置を特定する機能、撮影方向を特定する機能、撮影箇所(被写体)までの距離を特定する機能を統合したシステムです。(特許取得済)

自由に持ち運びができ、機内への持ち込みを可能とすることで、航空撮影に使用する機体を特定せず、臨機応変な稼働を実現しました。

本システムの特長を以下に紹介します。

- 1) 機内に持ち込んだ本システムのシャッターを切った瞬間の撮影位置、撮影方向、被写体までの距離から、被写体の位置(緯度経度+高さ)を自動算出

- 2) 上記成果のデータベース化
- 3) 写真画像とリンクしている被写体位置、撮影位置、撮影の向きを地図上に表示
- 4) 撮影をしながら重要なシーンに対してフラグを立てる
- 5) 被写体の位置精度に応じた住所情報をリアルタイムに取得

■本システムの利用価値

- 1) 被災状況など、信頼性の高い情報を迅速に提供できる
- 2) 災害時などのライブ映像に被写体の住所情報をリアルタイムに表示できる
- 3) 救援、救助などのために現場に接近、侵入するルートの特定が迅速にできる
- 4) 過去の撮影成果との対比ができる

■お問い合わせ先

- (報道関係から) 株式会社パスコ 広報担当 TEL:03-3715-1048
(お客さまから) 株式会社パスコ カスタマーセンター TEL:0120-494-800

以上